

中国出身年少児の集団参入
—文化的道具による検討—

高 向山
(浜松大学)

キーワード：文化的道具、活動基準、援助様式

問題提起

本研究では、中国出身の U 君が幼稚園年少組の集団生活における活動基準および、ちょっとした逸脱行動に対する大人（担任と母親）の援助様式を文化的道具として捉え、その活用による U 君の社会化過程の様相を明らかにすることを目的とする。すなわち、幼稚園という異文化における生活習慣や活動基準がどのようにして幼稚園教諭によって提示され、U 君が家庭における習慣や行動基準と照らし合わせてどのように行動を調整していくのかを検討する。具体的には①担任は立ち振舞いに関する基本的なマナーやクラスにおける活動基準などをどのように提示し、違反した場合にどのように援助するのか、②母親はしつけに関する基本的なことや家庭における兄弟の活動基準などをどのように提示し、違反した場合にどのように援助するのか、③U 君は集団の一員になる手がかりとしてそれらの活動基準をどのように使用したか3点について、入園より一年間の活動様子から検討する。

方法

東京都下にある私立 S 幼稚園年少組に入園した中国出身の U 君および U 君を取り巻く人々（担任、母親、クラスメート）を対象とした。2004年4月から2005年3月までの一年の間、月3回のペースで計27回にわたり実施した。

面接及び観察の記録は筆者がその場でノートに書き込み、調査終了後その日のうちに整理した。整理・分析の際には、場面や出来事の記述的な理解を目指す質的分析（qualitative analysis）を行い、エピソード毎に相互作用を記述した。

結果

①活動基準や行動マナーについて違反があったときに、担任は命令型や状況説明の言葉による関与を示す。しかし、次第に U 君に対してはしばしば手を添えながら、質問型の関わりを示す傾向が見られ始める。担任がやや強い口調で問いかけてくると、クラスメートの I 君はあきらめの言動を示しながら、比較的素直に担任の言うことに従うのに対して、U 君は黙秘や表情などあらゆる手を使って、担任が今にも爆発しそうなぎりぎりの線まで粘る様子が観察される。

②母親の語りからは、家庭では親に提示された基準が守られない場合、はじめは穏やかな口調によるしつけが行なわれるが、効果がないので、段階的に厳しく命令口調による関わり傾向が見られる。

③仲間に入れてほしいという相手の意図を汲み取って、相手から「いれて」と言われる前に、仲間に入れてあげる。また、日本人の幼児なら、T 君が「じゃ、これ、あそんでまってよう」と言って、間に入ってくれることに対して、「ありがとう」と言って、とりあえ

ず折り合いが付くと考えられる。しかし、U君の場合、あくまでも自己を主張して欲しいおもちゃに固執した。いずれの場合でも、積極的に直接的な関わり方を示す様子が見られる。一方で、自分が仲間に入れてほしいときは、「かして」と言って、集団活動に多く用いられる間接的な関わり方を使用し、きっかけを作る姿も観察される。

考察

異文化から来る幼児が園でトラブルを起こすことについて、言葉という課題のほかに、異文化の幼児は日本の幼児に比べ、それまで形成された対人スキルのなかで、自己主張の部分が顕著に見えることも関係すると思われる。通常の日本人幼児のやりとりでは、T君がせっかく「じゃ、これ、あそんでまってよう」と言って間に入ってくれるのだから、それがきっかけとなって、何となくいっしょに遊び始める。そこから徐々に遊びの輪に入っていく、最終的におもちゃを貸してもらい、いっしょに遊ぶという段取りが日本の幼児集団では自然な関わり方であろう。

しかし、U君にはT君の発言や状況などを理解する日本語力があってもかかわらず、彼はあくまでも積極的に自己を主張して欲しいおもちゃに固執した。それでも幼児たちに受け入れられたのは、幼児たちが仕方なくU君におもちゃを譲り、外圧によって「かしてー「いいよ」という遊びルールに従ったからではない。むしろ、いつの間にか、U君は他の幼児とともに遊びのルールを変形させて、その意味を再構成していたのである。つまり、遊びといった活動基準ははじめ幼稚園教諭によって提示された。日本人幼児の集団では、間接的なアプローチによってその活動基準が展開されていくのであるのに対して、外国出身のU君が加わることによって、活動基準は時には非間接的な傾向が見られ、その集団なりの形式と意味に変容されたと考えられる。

また、担任と母親の援助様式については、明らかにU君は同じ違反を犯したのに、幼稚園と家庭とではそれぞれ異なる介入の仕方を受けるのである。U君は異なる行動様式を自分の中で変容させ、日本人のクラスメートと異なる方略で行動した。彼は独自の意味システムを構築することを通して自我を発達させながら、集団参入（社会化）を行っていたことが分かる。

今後、集団の中でどのようにして自我を確立し、自分なりの役割を見出していくのかについて検討したい。